



愛と謙遜の偉大な人生

今から二千年前、混乱と貧困にあえぐ人々は、救世主を求めて神に祈っていました。そこで神は、ご自分のひとり息子イエスを地上に遣わされたのです。

ところが、ある人たちは、イエスが自分の望んでいたような救世主や王ではなく、あまりにも謙遜な方法で現れ、死に至るまで愛を説き、謙虚な存在であったので、イエスを「救い主」として受け入れられず、むしろ迫害するようになりました。イエスの教えと生き方が、当時の支配者や宗教指導者たちの利己的でプライドに満ちた生き方を暴露したからです。

イエスが説いた愛の教えは、それまでの、武力を誇り、強い者だけが権利を持つ、という世の中とは相反するものでした。イエスは偉大な人生を生き、後に続く歴史上の偉大な人物の多くに影響を与えましたが、その偉大さは、愛と謙遜における偉大さでした。神の方法とは、何と不思議なことでしょう。それでは、イエスがどのような方だったか、聖書にある記述やイエス自身の言葉の幾つかを見てみましょう。

謙遜な救い主

イエスは馬小屋で生まれた：

「初子を産み、布にくるんで、飼葉おけの中に寝かせた。客間には彼らのいる余地がなかったからである。」(ルカ2:7)

イエスが救おうとした人の多くは彼を拒絶した：

「彼は世にいた。そして、世は彼によってできたのであるが、世は彼を知らずにいた。彼は自分のところにきたのに、自分の民は彼を受けいれなかった。」(ヨハネ1:10-11)

山上の垂訓から：

「柔和な人たちは幸いである。彼らは地を受け継ぐであろう。」(マタイ5:5)

指導者の心構えについてのイエスの言葉：

「異邦の王たちは、その民の上に君臨し、また権力を振っている者たちは恩人と呼ばれる。しかし、あなたがたはそうであってはならない。かえって、あなたがたの中で一番偉い人は、一番若い者のように、指導する人は仕える者になるべきである。」(ルカ22:25-26)

イエスのエルサレム入場：

「見よ、あなたの王がおいでになる、柔和なおかたで、ろばに乗って、くびきを負うろばの子に乗って」。(マタイ21:5)

弟子の足を洗う謙遜さ：

「[イエスは]水をたらいに入れて、弟子たちの足を洗い、腰に巻いた手ぬぐいでふき始められた。こうして彼らの足を洗ってから、上着をつけ、ふたたび席にもどって、彼らに言われた、『わたしがあなたがたにしたことがわかるか。あなたがたはわたしを教師、また主と呼んでいる。そう言うのは正しい。わたしはそのとおりである。しかし、主であり、また教師であるわたしが、あなたがたの足を洗ったからには、あなたがたもまた、互に足を洗い合うべきである。わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしは手本を示したのだ。』」(ヨハネ13:5、12-15)

告発する者たちの前での沈黙：

「彼はしえたげられ、苦しめられたけれども、口を開かなかった。ほふり場にひかれて行く小羊のように、また毛を切る者の前に黙っている羊のように、口を開かなかった。」(イザヤ53:7)

私たちのレベルまで下がって下さった：

「キリスト・イエスにあっていただいているのと同じ思いを、あなたがたの間でも互に生かしなさい。キリストは、神のかたちであられたが、神と等しくあることを固守すべき事とは思わず、かえって、おのれをむなうして僕のかたちをとり、人間

の姿になられた。その有様は人と異ならず、おのれを低くして、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた。（ピリピ2:5-8） 「彼は御子であられたにもかかわらず、さまざまの苦しみによって従順を学び、そして、全き者とされたので、彼に従順であるすべての人に対して、永遠の救いの源となり」（ヘブ5:8-9） 「わたしたちの弱さを思いやることのできないようなかたではない。罪は犯されなかったが、すべてのことについて、わたしたちと同じように試練に会われたのである。」（ヘブル4:15）

もしあなたが、この謙遜な救い主にまだ出会っていないなら、たった今そうすることができます。イエスは、あなたの心の扉の前に立って、謙虚に、あなたが招き入れてくれるのを待っています。神もイエスも、強要はしません。ただ、あなたが幸せになることを願って、優しく心の扉をたたいているのです。

愛と謙虚さの素晴らしさを知りたいなら、ぜひ、愛の霊そのものであるイエスを受け入れて下さい。真の愛や謙虚さは、自分の力で作り出すことはできないし、勉強や修行によって得ることもできません。それは、自分には助けが必要なことを認め、神から受け取るものなのです。ですから、次の簡単な祈りをするので、それを受け取って下さい。

「イエス様、今、心の扉を開きます。どうか私の心の中に入って下さい。今までの過ちや愛のない行動をゆるし、私をプライドから解放し、あなたの愛と謙虚さで満たして下さい。そして、永遠の命を与え、新しい人生に導いて下さい。アーメン。」

愛と謙遜

デービッド・ブランド・バーグ

愛の大きな部分を占めるものは謙遜さである。愛情深くあり、また愛を受け取るには、謙遜さを要する。恋をして真の愛を受けたいならば、プライドを捨て、その愛を受け取るほどに謙遜にならなければならない。

主と私たちの関係においても同じことが言える。神は、私たちを愛して下さったゆえに、ご自分の一人息子イエスをこの世に送られた。イエスが私たちの身代わりに死んで下さったと聞いた時に、私たちは、へりくだって、その神の愛を受け入れなければならない。救いを受け取ることは謙遜な経験であり、謙遜になる人は、ゆるしと、あふれんばかりの愛を受け取る。だが、プライドの高い人は、二つとも受け損ねてしまう。「神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだる者に恵みを賜う」からだ。（ヤコブ4:6）

謙遜さと愛は切り離せない。真に愛情深い人は、真に謙遜であり、真に謙遜な人は、真に愛情深い。真の愛を持ちながら、高ぶる人はいないし、多くの愛を持たずに本物の謙遜さを持つことはできない。プライドは失敗と拒絶を恐れるので、周りに手を差しのべ、愛することを邪魔する。だが、謙遜はそうではない。謙遜には恐れがなく、愛と信仰があるからだ。愛は、人にどう思われるかを気にせず、ただ愛する。だから謙遜になり、愛しなさい！